

令和7年度 学校経営計画・学校評価

■4月8日(火)提出

■10月2日(木)提出

■3月13日(金)提出

学校番号	12	高知東工業	高等学校	課程	定
------	----	-------	------	----	---

高知県の教育の基本理念	(1) 学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく人 (2) 郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人 (3) 多様な個性や生き方を互いに認め、尊重し、協働し合う人	スクール・ミッション	様々な生活スタイルや学習のニーズを持つ生徒に対応し、主体性や社会性を育成するとともに、生徒一人一人の多様な進路実現を図る。 働きながら学ぶことや学び直し、資格取得に向けた教育活動など、生徒に寄り添い支援し、企業との連携やデジタル化に対応した実践的な機械分野の工業教育を行うことで、産業界を担う人材を育成する。
スクール・ポリシー	【アドミッション・ポリシー】(入学者受け入れ方針) ○ものづくりに興味・関心がある生徒を募集します。 ○基本的な生活習慣を身に付け、規律ある生活を送ることができる生徒を募集します。 ○機械等の専門知識を生かして産業界で活躍したい生徒を募集します。 ○働きながら学ぼうとする意欲がある生徒を募集します。 【グラデュエーション・ポリシー】(育成を目指す生徒の資質・能力) ○社会人として必要な規範意識とコミュニケーション力を育成します。 ○機械に関する工業技術・技能を社会で生かす意欲を育成します。 ○ものづくりの楽しさを実感し、最後まで諦めずに挑戦できる力を育成します。	【カリキュラム・ポリシー】(教育課程の編成・実施方針) ○機械の知識・技能を習得させるため、少人数・個別指導を行います。 ○最新の実習設備や機器を活用して、デジタル化に対応した実習を行います。 ○高知北高校との併修及び高知高等技術学校技能訓練制度の活用によって、3年間で卒業を可能とする教育課程を編成します。 ○生徒一人一人の進路実現を図るため、個に応じたキャリア教育を計画的に行います。	

学校関係者評価	
【学力の向上】 評価	【 A 】
生徒数が少ないので、多少の未達成は仕方ないものと判断しました。学力について、引き続きの取組を期待します。	
【社会性の育成】 評価	【 B 】
目標にある相手の気持ちを考えて行動しているなどは評価し難いものなので、未達成は仕方ないことかと思いました。生徒さんたちが楽しんで学校に来られるような取組を期待します。	
【チーム学校】 評価	【 A 】
先生方の継続的な努力によりほぼ達成していると判断しました。引き続きの取組を期待します。	

(評価)A: 目標を十分に達成 B: 目標をほぼ達成 C: やや不十分 D: 不十分

重点項目	育成を目指す資質・能力【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】
学力の向上	★確かな学力 ○基礎となる知識・技能 ○思考力、判断力、表現力 ○生涯にわたって学び続ける意欲 ★自己の将来とのつながりを見通した学び ○社会の形成に主体的に参画するために必要な資質・能力 ○キャリアデザイン力(やりぬく力)	○D3層の生徒の減少 ・1年生(9名)のD3層該当者を1名減少させる。 ・2年生(9名)のD3層該当者を1名減少させる。 ○授業外学習時間の増加 R6:1日17分→R7:1日20分 ○将来のための勉強をしている生徒の増加 R6:61.1%→R7:65% ○学校行事への参加率増加 R6:81.1%→R7:85%	・授業規律の確立(指導の統一を図る) ・個に応じた授業への改善 教材の工夫(ICT活用等) ・サポステと連携し、1年次より系統立てたキャリア教育の推進 ・生徒会を中心とした企画運営を行い学校行事等を充実	B ・基礎力診断テストの結果は未判明だが、入学時点の学力から多くがD層に該当すると考えられる。 ・ワンウィークトライアルに時間いっぱい取り組む姿勢が見られ、個別対応の工夫が一定の成果を上げていると考えられる。 ・将来の可能性を広げるために勉強をしている生徒は、65.4%であった。 ・学校行事への参加率は94%であった。	・学習意欲のある生徒もいるため、授業規律を徹底し、D3層の減少と学力向上を継続して図る。 ・ICT活用と探究型授業の導入を進め、生徒が主体的に学べる環境を整える。 ・進路指導をさらに充実させ、生徒が「学校に来る意義」や「将来の展望」を自ら見出せるよう促し、キャリア教育の継続的な推進を図る。 ・学校行事は、教員の支援のもと生徒会が参画し、生徒の主体的な関与を促す。	B ○D3層の生徒の減少 ・目標(1年生、2年生)の学力底上げの継続的支援は引き続き必要。 ○授業外学習時間 ・1日12分で目標(1日20分)に未達。 ○将来のために勉強をする生徒増加 ・66.7%で目標(65%)を超え。 ・将来を見据えた学習意欲は一定向上。 ○学校行事への参加率増加 ・86.3%で目標(85%)を超え。	○D3層の多さ ・基礎学力の定着不足が要因。 授業改善・ICT活用継続。 ○授業外学習時間 ・学習習慣の仕組みづくり。 ○将来意識 ・進路指導の充実。学ぶ意義の自覚を支援。 ○学校行事参加 ・生徒会の関与を強化。
	社会性の育成	★豊かな心、多様性・包摂性の尊重 ○豊かな人間性・道徳性・社会性 ○他者への思いやり(地域・社会貢献、ボランティア活動等も含む)	○「人と一緒に何かをするときは、相手の気持ちを考えて行動している」 R6:94%→R7:95% ○「高校入学以降、地域や社会をよくするために、地域貢献活動やボランティア活動などを行ったことがある」 R6:72%→R7:75%	・保護者、SC等の専門家との連携により生徒情報の収集や活用 ・地域清掃ボランティア等の活用 ・保健講話による自己・他者理解	B ・人と一緒に何かをするときは、相手の気持ちを考えて行動している生徒は84.6%であった。 ・地域清掃ボランティア等の活動を通じて、生徒の社会性が徐々に高まっている。 ・生徒の社会性や進路意識が徐々に育まれており、将来の夢や希望を持つ生徒は61.5%であった。	・道徳教育などを通じて他者理解を深める活動を拡充し、協働力や社会性の向上を図る。 ・卒業生である学習支援員との交流を通じて、働く意識と社会性を育む機会を提供する。 ・SH・LHを活用し、担任の声掛けを通じて社会性と進路意識を育む。	B ○相手の気持ちを考えて行動する生徒 ・75.0%で目標(95%)に未達。 ○地域貢献・ボランティア活動経験者 ・66.7%で目標(75%)に未達だが、一定の参加実績あり。 ・日常の関わりや地域活動を通じて、他者理解や社会性の定着は進んではいるが、今後も継続的な支援が必要。
取組項目	【取組のねらい】 ○生徒の社会的自立・社会参画に必要な資質・能力の育成 ○地域・関係機関との連携	○「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」 R6:60%→R7:65% ○地域・関係機関との連携回数3回	・地域清掃ボランティアや地域店舗等への聴講生募集の協力依頼 ・技術競技会、発表会への積極的参加	C ・「地域や社会をよくしようとする」生徒の割合は、46.2%で目標に達していない。 ・地域清掃ボランティアなどの取組は行っているが、地域参画への意識の定着には課題が残る。 ・技術競技会の参加は、今年度は難しい状況である。	・夜間活動の制限を踏まえつつ、多様な人との交流による成長を重視し、可能な範囲で地域交流の機会を調整・確保する。 ・生徒のアルバイト経験などを生かし、勤労への意識づけを継続することで、社会的自立および社会参画への意識を育む。	B ○地域参画意識 ・50.0%で目標(65%)に未達だが、社会参画意識の育成に努め、中間評価後より着実に向上。 ○地域連携の実績 ・目標の3回を上回る連携を実施し、地域と連携した学習機会を確保。	○地域参画意識 ・授業やLH等を通じて、地域参画の意義を実感できる学習機会を工夫。 ○地域連携・協働 ・夜間活動の制限下でも、地域交流の機会を確保し継続。
	【取組のねらい】 ○学習の基盤となる言語能力や情報活用能力の育成 ○各教科の学びを実社会での課題発見や解決に結び付ける力の育成	○各教科において言語活動や情報活用能力を育成する場面を意識的に設定した回数:各教科月に1回 ○課題研究で課題発見や解決に結びつけている成果物:100%	・授業参観週間の実施 ・教員同士の授業見学 ・ICT活用や、考えさせる授業を展開	B ・各教科で、言語活動や情報活用を取り入れた授業を模索しながら展開している。 ・課題研究では、それぞれの課題解決に向けた取り組みが進められている。	・若年教員を中心にICT活用の自己研修が進められており、学校全体への広がりを目指し、学び合える場を設定する。 ・課題研究では、教員が過度に関与しすぎないよう配慮し、生徒主体で取り組めるよう意識的に進めていく。	A ○言語活動・情報活用の場面設定 ・各教科で月1回の設定を達成。 ・ICT活用や思考を促す授業が進展。 ○課題研究 ・成果物100%達成。完成度・実用性が高く、県教委からも高評価。	○言語活動・情報活用 ・教科間での実践共有を進め、授業力の向上を図る。 ○課題研究 ・課題設定の高度化と探究の深まりを促す指導を意識。

チーム学校	取組のねらい【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】
チーム学校	★学校の魅力化・特色化 ○生徒の資質・能力の育成 ○教員の指導力向上 ○学校の関係機関との連携 ○専門高校(学科)の魅力化	○魅力化・特色化の具体的目標(指標) ・中途退学者0名 ・教員の専門力向上に係る研修会への参加4名以上 ・製造業関係への進路希望者:30%以上 ・学校Instagramによる情報発信 月1回 ○学校運営協議会等の実施回数 年2回	・校内支援会の充実 ・ICTを活用したわかる授業の実施 ・教員の研修会への積極的参加 ・技術競技会、発表会への積極的参加 ・近隣企業との連携 ・学校Instagramの運営	B ・校内支援会を毎月開催し、情報共有と未然防止・支援につなげている。 ・ICT活用は若年教員を中心に、研修への参加や授業での活用を通して実践が進んでいる。 ・製造業への進路希望は意識づけを行っているものの、希望者は少ない状況である。 ・Instagramを活用した情報発信を行っている。	・具体的な取組内容を継続し、学校の魅力化・特色化を図る。 ・ICT活用の授業を継続し、わかりやすく魅力ある授業づくりを推進する。 ・Instagramによる情報発信は、製造業への関心が薄いままで入学した生徒もいるため、実習などを通して「ものづくりの楽しさ」を伝え、進路選択につなげる。	B ○魅力化・特色化 ・教員4名以上が研修に参加。 ・製造業への意識づけを継続。 ・Instagramで月1回以上の情報発信を行い、魅力発信に成果。 ○学校運営協議会等 ・年2回実施し、地域と連携を推進。	○魅力化・特色化 ・研修やICT活用を継続。 ・実習や企業連携で製造業への関心を高める。 ○学校運営協議会等 ・情報発信や協議会を通じて地域連携を強化。
	★教職員の倫理観の堅持 ○不祥事防止対策の徹底 ○よりよい職場風土づくり ○教職員のメンタルヘルス ○不祥事発生時の適切な対応	○倫理観堅持のための具体的目標(指標) ・不注意事案発生件数 0件 ○校内研修の実施回数 学期に1回以上 ○不祥事防止委員会の実施回数 学期に1回以上	・職員相互でのコミュニケーションの充実 ・校内研修の充実(外部講師の招聘を年2回) ・SC等の専門家との連携 ・不祥事防止委員会による注意喚起	B ・SC等の専門家との連携を図りながら、職員の対応力向上と不祥事防止に努めている。 ・職員数が少ないため、全員が不祥事防止委員として毎職員会後の委員会に参加し、学校長主導で不祥事防止に努めている。	・校内研修を継続的に実施し、職員の倫理観や専門性の向上を図る。 ・不祥事防止委員会等を活用し、注意喚起を継続して行い、不祥事防止に努める。	A ○倫理観の堅持 ・不注意事案0件で目標達成。 ○校内研修と不祥事防止委員会 ・校内研修と注意喚起を兼ねて毎月開催し、全職員で継続。	○倫理観の堅持 ・日常業務での確認・声掛けを徹底。 ○不祥事防止委員会 ・取組は定着。職場風土やメンタル面の支援にも拡大。
	★長時間勤務の解消 ○不規則な勤務などによる心身への負担を軽減	○時間外の長時間労働は見られない。 ○不規則な生活や校務の集中化などによる心身への負担などが見られる。	・校務や学校行事の精選 ・校務分担の検討 ・各種資料(職員会議等)のペーパーレス化 ・「すぐる」の活用	B ・教職員間のコミュニケーションや連携は取れており、ペーパーレス化や「すぐる」の活用も進んでいる。	・校務や学校行事をより効率的に行う方法を検討し、来年度の精選につなげていく。	A ○勤務時間の適正化 ・長時間労働は見られず、取組の継続で成果。 ○業務の効率化 ・ICT活用・ペーパーレス化をさらに推進。 ○職場風土 ・相談しやすい環境づくり。	○勤務時間の適正化 ・校務分担の見直しを継続。 ○業務の効率化 ・ICT活用・ペーパーレス化をさらに推進。 ○職場風土 ・相談しやすい環境づくり。